AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2019.7) 平成30年度:40.

全人工膝関節置換術後3週間以内のリハビリテーションに対する意識の変化

尾田 実穂, 小谷 理恵, 高 未奈子, 長谷川 静香

全人工膝関節置換術後3週間以内のリハビリテーションに対する意識の変化

旭川医科大学病院　8階西ナースステーション
〇尾田実穂　小谷理恵　高未奈子　長谷川静香

【目的】人工膝関節置換術（TKA）術後３週間以内で、リハビリへの意欲の維持・向上には具体的にどのような看護が必要か明らかにする。

【対象・方法】2016年4月1日～2017年3月31日までにA病院整形外科病棟に入院しTKAを実施した入院患者78名のうち、生理面以外でニーチャム混乱・錯乱スケールの減点がない77名の診療記録全てを振り返った。

【結果】診療記録から得られたデータは17のカテゴリー、40のサブカテゴリー、668のコードに分類された。出現頻度は「リハビリへの意欲」、「疼痛による辛さ」、「自己のペースを守ったリハビリ内容への意識」が高かった。術後日数で比較すると、術後1~9日は「痛みによる辛さ」、術後10日目以降は、「リハビリへの意欲」「自己の歩行状態への自信」が高かった。

【考察】総じてリハビリへの意欲は維持できているが、術直後は疼痛へと意識が向き易く術前から術後の疼痛に関する情報を提供することが必要である。術直後は身体面、退院前は歩行状態や個人目標を意識しているため、都度、目標設定が必要である。また、それらを他職種で共有し退院までに不安点を解決できるとよいと考える。さらに、歩行が自立することが歩行への自信に繋がるため、早期の歩行自立を目指し、術前から転倒予防行動の指導が必要と考える。

【結論】TKA術後患者のリハビリへの意欲の維持・向上に必要な看護は、1. 術前から術後の疼痛に関する情報を提供する。2. 患者の心理状況に合わせ目標を設定する。3. 不安を他職種で共有し退院までに解決する。4. 術前・術後の転倒予防行動の指導、以上の４点となった。